

平成27年度 病害虫防除技術情報 第1号

平成27年4月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

施設野菜の灰色かび病対策について

2月下旬のまとまった降雨以降、トマトおよびイチゴの施設で、灰色かび病の発生が県内全域で認められています。向こう1ヶ月の天候は平年に比べ晴天が多く降水量は平年並と予想されていますが、今後の気象条件によっては被害の拡大が心配されます。既に発生している圃場のみでなく、まだ発生していない圃場でも速やかに防除を徹底して下さい。

1. 発生の状況

3月中旬の巡回調査では、発生圃場率が平年より高かった。

・トマト

発生圃場率 : 70.0% (平年: 32.0%、前年: 0%)

平均発病葉率 : 2.0% (平年: 2.1%、前年: 0%)

・イチゴ

発生圃場率 : 30.0% (平年: 7.3%、前年: 10.0%)

平均発病果率 : 0.6% (平年: 0.1%、前年: 0.1%)

2. 防除上注意すべき事項

- 1) 発病果や発病葉は伝染源となるので、見つけ次第ハウス外に持ち出し、土中に深く埋める等の処分を行う。
- 2) 適切な肥培管理で植物体が過繁茂にならないようにする。また、適度な整枝や葉かきを行い、通気をよくするとともに殺菌剤がかかりやすくする。
- 3) 灰色かび病は、現在発生盛期であることから、治療効果のある薬剤を散布した後、予防剤を中心としたローテーション散布へと移行するのが効果的である。
- 4) 薬剤散布に当たっては天候に留意し、薬剤散布後の施設内が速やかに乾燥するように注意する。
- 5) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に同一成分を含む薬剤を連用しないようローテーション散布を心掛ける。
(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>)
- 6) 混合剤の場合、異なる商品名で同一の薬剤成分が含まれる場合があるため、「成分総使用回数」を十分確認した上で使用する。